

2016年3月22日(火)

国際サーカス村通信 Vol.20 No.03

文責 西田 敬一

編集 NPO 法人国際サーカス村協会

〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1

Tel 0277-70-5010 Fax 0277-97-3688 <http://www.circus-mura.net> k-nishida@accircus.com

● “サーカスはリヤカーに乗って” 沖縄へ

東日本大震災、福島第一原発爆発から5年目の今年、“サーカスはリヤカーに乗って”の旅は、ついに沖縄へ足を伸ばすことができた。

そもそも今回の旅は、2012年の“旅する道化師と大道芸人たち”というタイトルで、九州、四国までの旅にチャレンジしたことに始まる。福島第一原発が撒き散らした放射能の飛散が、サーカス学校を一時休校せざるをえない状況に追い込んだこと、しかしその休校の間に指をくわえているわけにもいかないと思ひ、なぜ休校せざるをえないか、そしてサーカス学校はどんな活動をしているかを、より多くに人々に知っていただきたいと考えたからであった。

そして2014年の旅は、この年の3月11日、閉山されている足尾銅山がある松木川の上流で、その先の道は通行止になっているところから、リヤカーを引いて、旅を始めた。

この時、リヤカーに立てた幟のひとつに、“足尾からオキナワへ”と書いたのは、原発事故、在日米軍基地もまた公害であり、その公害の原点は足尾鉍山の鉍毒であると考えてのことであった。これら全ては、国家が国民をないがしろにして多くの被害者を生みだしている公の犯罪行為ではないのか。であれば、僕らの抗議の旅は、足尾からオキナワへ、それをつなぐ旅であるべきではないのか。そんな思いで2回目をスタートさせたが、大阪から出発した鹿児島島の川内原発再稼働阻止のキャラバンに参加し、大阪、関西電力前から各地で情宣活動をしながら鹿児島川内原発前まで旅したが、海を超えることはできなかった。

そして今年、ついにオキナワ行きが叶ったのである。これには、いつも行動を共にしている田中健太の強い想いと今回の旅に積極的に参加の意思を示してくれたヨシ&ナナがいたことが大きい。そして、オキナワ、辺野古・高江への基地建設反対の人々を支援し共に活動するための旅であり、それはまたサーカス学校のひとつの公演形態であることを理解し支援していただいた多くの人々の気持ちとカンパがなければ、実現しなかった。実は、大阪南港から沖縄へのカーフェリーの運賃は、飛行機を利用するよりもはるかにお金がかかり、その資金の捻出に頭を痛めていたからである。

ここに、改めて応援してくださった方々に心より感謝申し上げますとともに、今後も活動を続けていくこととお伝えしたいと思います。

*

旅は、3月5日(土)の早朝、リヤカーを積んだワゴン車でサーカス資料館を出発し、一路、大阪南港へ。18:30発の琉球エクスプレスのカーフェリーに乗船し、沖縄へ向かう。2泊3日の船旅。

3月7日(月)2時間遅れの11時過ぎに那覇新港に到着し、この日飛行機で那覇入りしたヨシ&ナナをピックアップし、ホテルに入る。

3月8日(火)県庁前の商業施設パレットくもじ前の広場で、最初のショーを行う。沖縄のサーカス村会員である大城弘明さんが各マスコミに連絡を取ってくれていたもので、取材が殺到。ここで3回のショーを行い、その後、辺野古に向かう。

抗議のテント村にある基地の前を通過し、辺野古の宿である“海と風の宿”に到着。宿主の成田さんに暖かく迎えられる。翌日、5時半頃に宿を出発し、テント村に向かうことを決める。

3月9日（水）朝、5時半に宿を出て、現地へ。雨がぱらつく天気であった。テント前に到着。リーダーの山城博治さんにお会いし、打ち合わせをする。基地建設のための搬入道路の前には、2台の大型警察車両が停車している。抗議の人々はその前に仮設のベンチをしつらえて、座りこむ。以前、打ち合わせに来た時に、山城さんと決めたとおりに、道路を挟んだ反対側、ここにも警察のワゴン車が止まっているが、その前で演技することにする。雨が強くなるということで、リヤカーを下ろすのを諦め、道具だけを道端におろし、ブルーシートを被せ、準備に入る。

リーダーの大城さんが「群馬からサーカス団までが、応援にやってきてくれましたよ」と、抗議の演説の合間に僕らを紹介してくれる。天気模様を眺めながら、11時過ぎに、ショーを始める。その奥は基地でフェンスになっている崖の上に登って、ナナが椅子倒立をすると、「危ないぞ」の声があちこちからかかる。↓写真・リーダー山城博治さんと[撮影・大城弘明]



1回目の終了後、雨が強くなり、座り込んでいた人々も、テントに避難する。2回目は、そのテントの中でのパフォーマンスとなる。全国から応援に来ている人々、そして地元・沖縄のおじい・おばあの歓声と大きな拍手。僕らの日々の訓練場所であるサーカス学校が放射能で一時休校せざるを得なかったこと、そして、反原発の旅が始まり、辺野古に新基地ができること、高江にヘリパットが次々できることも僕らの問題として考えなければならないことなどを、マイクを渡された時に少しだけ話しをする。

る。

雨が止まないために、この日は3時過ぎに解散となる。福岡高裁那覇支部から沖縄と国に和解案が出され、国もその和解案を受け入れたために、新基地建設の工事が中断することになり、抗議の人々は少なくなっているとのことだったが、それでも200名以上の人々が、雨の中、集まっていた。

3月10日（木）やはり雨模様。この日も5時半に宿を出て、現地へ。僕は、仮設ベンチに座り込んでいた人々に加わる。雨が止まず、皆、テントの中に。この日のパフォーマンスはテントの中となるが、ケンタは高足を履いてゲート内の警察に向かって、アピールする。

なんとなく、手持ち無沙汰なので、雨が止む合間に、道端に座りこみ、通過する米軍車両や一般の車に向かって、プラカードを振る。ヨシ&ナナはテントの中でパフォーマンス。

3時近くになり、次の応援抗議の場所である高江に移動する。

実は、この日に、東京から反原発、改憲反対などの集会・デモに何十回となく参加している、会員で、サーカス資料館の設計者である塩脇裕さんが彼の沖縄の友人である本村さんと現れる。で、塩脇氏も高江に行き、一緒に泊まるということで、現地でお会いすることにする。

東村（ひがしそん）に入り、とりあえず現地に行く。ここのテント小屋は国道70号線のN1というポイントに立てられているのだが、この国道そのものが米軍の北部演習場を抜けていて、この国道は米軍と日本の共同使用というもの。実は辺野古を抜ける国道も同じで、そこはいつ米軍が演習の途中で武装したままひょっこり現れないとも限らない、極めて物騒であり、また、日本の他の県ではあり得ない状況なのである。このひとつとっても、沖縄を、いかに米軍が思うがままに使っていることが明らかではないか。

抗議テントに到着。留守番の人と、この日にここを見に来た学生グループしかいなく、静かなものだったが、明日の打ち合わせをして、この日の宿“ディゴ宿”に向かう。会員の大城さん、小生の妻と一緒に

食材を買い求める。ディゴ宿に、塩脇さんが到着。この日は、僕ら、塩脇さん、それに同宿の那覇市の女性の方と夕食。



↑写真(左)高江の子どもたち (右)米軍トラックへ抗議のプラカード[撮影・大城弘明]

3月11日(金)抗議テントのあるN1に10時前に到着、この日の当番の安次嶺雪音さんにお会いする。いま、抗議の人々が少ないのは、3月から6月、この辺りに生息している天然記念物のさまざまな動物の繁殖期なので、ヘリパット工事も一時中断しているとのことであった。しかしオスプレイは遠慮なく爆音を響かせている。

抗議の人々はほとんどいなかったが、僕らのショーには、地元の保育園の園児や何人かの人々が集まってくれたのは、なんともありがたかった。何しろここでも道路脇の公演となり、横を車が通り抜けるので、ひやひやしながらの演技となった。

公演を終え、別れを告げ、さらに沖縄本島を北上、山道を抜け東シナ海側に出て、謝敷村に。

実は、会員の一人であり、高松で白鳥動物園を運営している松村順一さんが、ここ謝敷村に広大な土地を入手し、第二の動物園を作ろうとしている話を、今回の沖縄の旅の直前に知り、なんとか現地を見せてもらおうと思い、連絡をとりあっていたのだ。松村さんは“海と風の宿”まで足を運んでくれていたのだが、やはり現地を見せてもらいたく謝敷へ向かった。

そこは山の上で、この日は強風が吹き荒んでいた。そこに、大きな鉄筋の建物、猛獣用の檻、コンテナハウスの壁をセメントで固めつつあるものからトラクター、無数の大きなコンクリートブロック、あちこちに掘られた大きな穴などなど。そしてすでに何種類かの齧歯類などが飼われていた。

松村さんのバイタリティには本当に驚かされる。

この日は、那覇に戻り、初日に宿泊したホテルに。夜、塩脇さん、本村さんと会食、話が弾む。

3月12日(土)なんと、この日は晴れ。また船旅になるので、晴れて海が穏やかであれば、船酔いしやうい僕にはありがたいのだが、ここ3日間の辺野古・高江での公演が雨だったのは、なんとも残念。

午前中、南部徳洲会病院のデイケアセンターで、公演。

4時発のカーフェリーで帰路につく。ヨシ&ナナも船で。

3月15日(月)6時過ぎに大阪南港へ。サーカス村を目指す。

●卒業生からのレポート - カナダより 目黒有沙

こんにちは、ご無沙汰しております。日本はそろそろ梅が咲く頃でしょうか。ケベックでは未だ積もったままの雪が見受けられます。

さて、Vague de Cirque との夏から初冬にかけての契約、クリスマスのキャバレー、新年早々の日本

がテーマの企業イベントを経て、私は先頃カリブ海を航海してきました。雪と氷に覆われたケベックとは180度、汗ばむほどの気候に真っ青な海と空、陽気な音楽、と実にバカンスの典型と言える世界が広がっていました。

私が2週間ほど滞在したこの船は、カリビアンプリンセスという名前で世界のあちらこちらを周るクルーズ船のようです。船内には複数のカフェ、バー、レストラン、プール、ジャグジーに劇場、ジム、美容院やエステサロン、画廊、カジノ、服飾店等様々な設備が整っていて、更にバーではピアノ、エントランスホールではバイオリンやティンパニ、デッキではバンドの生演奏がかぶらないように配置され、劇場ではコメディアンによるトークショーや専属ダンサーやシンガーによるショー、と他にもまだまだ有るのですが、とにかくイベントの無い時間が見つけれない程詰め込まれたスケジュールが組まれていました。



さて、今回の移動はケベックから飛行機でグランドケイマン島に着きその日はホテルに滞在、翌日港でチェックを受け乗船という流れでした。

船上での待遇はというと、短期間しか滞在しないゲストアーティストである私達は一般的な食事は無料、ショー以外の仕事は一切無し（長期で雇用されているパフォーマーはウェイターや雑用などが追加されることがあるそうです。）旅客が無料で使える設備は同じく無料、観光地に着けばお客さんは皆降りてしまうので勿論ショーはありません。つまり無料でクルーズ船に乗って観光ができ同時にショーでお金も稼げる、と一石二鳥、かなり良い待遇なのですがそうそう良い話だけで出来ているお仕事などはありませんよね。

この契約での難点を挙げるとすると、海上なのでインターネットは有料で速度も遅いです。仕事のメール確認すら困難です。そしてそう、船の上なので揺れます。大きな船なのでそこまでじゃないだろう、と思われるかもしれませんが場所によってまちまち、物が倒れることもあれば、両足で立っていれば何も感じないほどの場所もあります。個人的には乗り物に酔いやすい人にはあまりオススメしません。私は若干酔いやすい程度なのですが、2日間何処にも寄港せずに海上を移動した時はやはり酔いました。そしてその上でパフォーマンスをするのです。幸いにもショーの最中は脳内麻薬のおかげか、気持ち悪くなったりはしなかったのですが、私の作品には私の好みによって倒立やバランスを取る技ばかりが入っていますので技に入る前、そしてキープ中は常に戦々恐々としていました。ここでの経験は沢山の学校に入ったばかりの頃を思い出させてくれました、あの頃は床ではなく自分自身が揺れていたのですが。

とにかく、これらの難点を克服できればかなり旨味の多い契約だった、というのは確かです。船上を主な活動の場としているサーカスアーティストが多いのも頷ける話、実際今回のハンド・トゥ・ハンドのパートナーであるエミリーは12年のアーティスト経歴中、ここ最近の6年は船上だと言っていました。彼女曰く慣れが肝心。波が荒くてもハンド・トゥ・ハンドであればなんの障害にもならないそうで頼もしい

限りです。私も彼女を見習い、揺れに慣れて船上契約が一つの将来の選択肢にできるよう更に精進していこうと思います。



では、ここで今回の日程をご紹介します。

- 2月2日早朝、ケベック空港を出発。昼過ぎ、グランドケイマン島に到着。ホテルへ。
- 2月3日昼頃、ジョージタウンの港から船に乗り込む。夜にショー2回。
- 2月4日メキシコ、ユカタン半島、コスタマヤに寄港。夜にショー2回。
- 2月5日メキシコ、コズメル島に寄港。
- 2月6日海上移動。
- 2月7日アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン着。乗船客の入れ替え。
- 2月8日海上移動。夜にショー2回。
- 2月9日海上移動。
- 2月10日ホンデュラス、ベイアイランド、ローストンに寄港。夜にショー2回。
- 2月11日ベリーズ、ベリーズシティに寄港。
- 2月12日メキシコ、コズメル島に寄港。夜にショー2回。
- 2月13日海上移動。
- 2月14日アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン着。空港からケベックへ。深夜着。

ということで12日間で計10回のショーでした。

今回の契約のために私たちはハンド・トゥ・ハンド、ソロコントーション、ソロディアボロの3つを用意して、それを交互に披露しました。揺れを考慮し技を幾つか省いたので、自分からすれば薄い内容だなあと感じていたのですが、評判はかなり良かったようです。というのも今までその船が雇ってきたアーティスト達とはとにかくおしゃべりが多く笑いを取ろうとしたりしていて”エンターテイメント”ではなかった、退屈で最悪だったとのこと。これを聞いて私は正直以前のアーティスト達に同情しました。

何故って詳しくは書きませんが今回の契約、1作品(コントーション5分ディアボロ5分、みたいなことはできません、あくまで1作品です)10分から15分で、それを3つ用意しろ、というオーダー。本来であればストリート・パフォーマー達にいく話です。きっとエージェント達も普段であればそちらに話を通していただこうでしょう。ですが、クライアントは「お喋りは要らない、だが一定のパフォーマンス時間は譲らない」という姿勢。従うしか道がないエージェントとアーティスト。

こちらでも市場崩壊は遠い未来の話ではないようです。

気が重くなるお話が最後に来てしまいました。これが現状と受け止め、市場保全を心がけつつキャリアを築けるよう頑張っていこうと思います。

では、レポートはこのぐらいで終わりにします。皆様によき春が訪れることをお祈り申し上げます。

< 沢入国際サーカス学校卒業生・目黒有沙 2月2日早朝記 >

最新 サーカス公演情報

★木下大サーカス
●大阪花博公演 公演期間 2016年3月12日(土)～2016年6月13日(月) ●休演日；毎週木曜日と4/13と5/18。ただし5/5と5/6は休演。 ●会場；大阪市鶴見区 花博鶴見緑地 特設会場 ●電話；大阪花博公演事務局 TEL06-6915-3033
★ポップサーカス
●浜松公演 公演期間 2016年2月27日(土)～2016年4月10日(日) ●休演日；毎週水曜日 ●会場；プレ葉ウォーク浜北大テント ●電話；浜松公演事務局 TEL053-545-6822
★野外民族博物館リトルワールド “ヨーロッパ・サーカス”
サーカス大国ハンガリーとウクライナ、リトルワールド初登場のポーランド、数々のサーカスファミリーを輩出しているブルガリアの計4カ国から11名のサーカスアーティストが来日。磨き抜かれた技、最先端をいく超技、さらには美を追求した技などヨーロッパの美味しいところだけを抽出したサーカスショーです。この春は、香り高いヨーロピアン・ブレンドのサーカスをお楽しみください。 ●公演期間 2016年3月12日(土)～2016年6月19日(日) ●公演時間 平日；11:30/14:00 土日祝；11:00/13:00/15:00 (各回40分) ●休演日；毎週火曜日 ※5/3(火祝)は5/2(月)へ振替 ●会場；野外ホール ●電話；リトルワールド TEL0568-62-5611
★ダイハツ シルク・ドゥ・ソレイユ「トータル」
※要情報更新 過去と未来で繰り広げられる「人類の進化」をテーマに無限の可能性を描く壮大な物語。 ●東京公演 2016年2月3日(水)～2016年4月10日(日) ●東京追加公演 2016年4月19日(火)～2016年5月22日(日) ●東京最終公演 2016年5月23日(月)～6月26日 ●会場；お台場ビッグトップ(ゆりかもめ「台場」駅より5分) ●詳細は http://totem-jp.com/

その他公演情報

★第2回 KAWASAKI CINEMA×大道芸 Festival
国内トップクラスのパフォーマーたちが川崎に集結!! “映画のまち・かわさき”生まれ! 映画をテーマにした全く新しい大道芸フェス! ●2016年3月26日(土)・27日(日) 11:00~ ●会場；川崎駅東口商業エリア一帯 (JR川崎駅東口駅前広場/ルフロン前広場ほか)
★山本光洋 かかしになるために 総集編
言葉と格闘し物と遊んだ10年間で作りためたパントマイム作品集。あんな作品こんな作品一挙公開! かかしになるために総集編2 ●2016年4月8日(金) 19:30、9日(土) 14:00と18:00 ●チケット料金；予約2500円 当日3000円 ●ご予約；TEL&Fax 03-3951-1999 ●会場；東京ノーヴィ・レパトリーシアター (小田急線・京王井之頭線「下北沢」駅)